



2017年7月15日〔土〕—9月18日〔月・祝〕 世田谷文学館

開館時間 10時〜18時（展覧会入場ミニシアターは開館の30分前まで）休館日 毎週月曜日（ただし7月17日（月）、9月18日（月）は開館、翌日休館）
一般 800円（640）／65歳以上・高校・大学生 600円（480）／障害者手帳をお持ちの方 400円（320）／中学生以下無料
*（）内は20名以上の団体割引 * 7月21日（金）は65歳以上無料 * 8月11日（金・祝）「山の日」は無料観覧日

to the mountains 展

主催＝公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館

協賛＝株式会社ウテナ 協力＝加賀市、深田久弥 山の文化館、京王電鉄、

産総研地質調査総合センター、日本山岳会、山と溪谷社

後援＝世田谷区、世田谷区教育委員会 助成＝一般財団法人 自治総合センター



せたがや区創設85周年



“to the mountains”

ひとは、この言葉に、どれだけの情熱を傾けてきたのでしょうか。

深田久弥 作家 登山家



©星月達夫



©新潮社

ふかた・きゅうや(1903-1971) 東京帝国大学在学中より改造社編集部所属、のちに文筆生活に入る。戦後は登山家として数多くの山岳に登り、「山の文学」を生んだ。なかでも『日本百名山』はベストセラーとなった。晩年はヒマラヤ関係文献を蒐集し、それらをもとにヒマラヤ紹介に情熱を燃やした。

田辺和雄 植物学者 登山家



たなべ・かずお(1900-1961) 1926年、鹿島橋にて積雪期初登攀を記録。深田とも幾度も山行を共にした。日本高山植物研究の先駆者であった武田久吉に師事。白馬岳、八ヶ岳、尾瀬を中心とした高山植物の研究を行い、『原色高山植物』『山とお花畑 全三巻』などを世に残した。

田部井淳子 登山家



写真提供：タベ井企画

たべい・じゅんこ(1939-2016) 1975年、世界最高峰エベレストに女性として世界で初めて登頂。1992年には七大陸最高峰登頂者となる(女性世界初)。子育てや仕事で忙しい女性たちにも山に親しんでもらう活動や、登山を通じての東北応援活動「被災した東北の高校生の富士登山」プロジェクトをはじめ、生涯にわたって山の楽しみ方を幅広い世代に伝えた。

石川直樹 写真家 探検家



『国東半島』©石川直樹

いしかわ・なおき(1977-) 2001年七大陸最高峰登頂を達成。人類学、民俗学などの領域に関心を持ち、辺境から都市まであらゆる場所を旅しながら、作品を発表し続けている。『NEW DIMENSION』『POLAR』により、日本写真協会新人賞、講談社出版文化賞、『CORONA』により土門拳賞を受賞。著書に、開高健ノンフィクション賞を受賞した『最後の冒険家』ほか多数。

小島烏水 随筆家 登山家



©日本山岳会

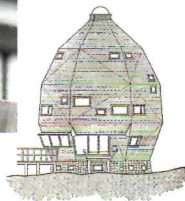


こじま・うすい(1873-1948) 銀行員のかたわら、文筆活動を行う。英国人登山家ウォルター・ウェストンと交流を重ね、欧州で盛んだった近代登山を普及させるために、日本版アルパインクラブである日本山岳会の創設に尽力した。また、浮世絵コレクター・美術批評家としても知られ、著書も多数執筆した。

吉阪隆正 建築家 冒険家



資料提供：早稲田大学建築学教室
本庄アーカイブス



よしざか・たかまさ(1917-1980) ル・コルビュジエの弟子のひとりとして、建築におけるモダニズムの思想を日本に紹介し実践。大学勤務のかたわらキリマンジャロ登頂やアラスカ・マッキンリー遠征など、登山や冒険を精力的に行った。また、その経験から厳しい環境に耐える山の建築を多数手がけた。

坂本眞一 漫画家



『孤高の人』©坂本眞一／集英社

さかもと・しんいち(1972-) 1990年、『キース!!』でデビュー以来、『モーター・コマンド-GUY』『益荒王』などの作品で人気を博す。2007-2011年『週刊ヤングジャンプ』に連載された『孤高の人』は、新田次郎による小説『孤高の人』を原案に、現代を生きる主人公「森文太郎」を創造し、圧倒的な筆力で坂本独自の〈山〉を描き出した。本作で文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。

富士山が世界文化遺産に登録され、8月11日が「山の日」として国民の祝日になるなど、近年、山や登山への関心が広がっています。山は、古代から人々の暮らしと深くかかわってきました。山は、ある時は人々に恵みを授け、またある時は信仰の対象として、人々の精神を支えてきました。『日本百名山』の著者である深田久弥は「山のような人間にならねばならぬ、山のような文章が書けるようにならねばならぬ」と語りました。彼の独創的な自然観察眼と、信念により生み出された山の文学は、今なお人々を魅了してやみません。本展では、深田をはじめ、時代を超えて同じ〈山〉というフィールドで繰り広げられてきた多様な〈知〉と〈表現〉に迫ります。

この夏、世田谷文学館は「山を発見するミュージアム」になります。「自分にとっての山とは」「自然とは何か」を見つけていただければ幸いです。

関連企画 会期中、多彩な関連企画を行います。ふるってご参加ください!

関連展示「山を考える」

「山の日」制定の経緯や、家族で楽しく登山するための心構えなどを、クイズ形式のパネルでご紹介します。

7.15[土]—9.18[月・祝] 1階文学サロン 協力=公益社団法人 日本山岳会

無料

「山へ!展 スタンブラリー」

展示関連のスタンブラリーを実施します。楽しみながら館内施設を巡ります。

7.15[土]—9.18[月・祝] 1階文学サロン

無料

講演会「地学で旅する日本列島の山たち」

「山」の成り立ちや地質について、また「宮沢賢治と山」についてもお話しいたします。

8.19[土] 14:00~15:00 1階文学サロン

講師:加藤碩一(地質学研究者・宮沢賢治学会理事)

対象:小学生以上・一般 定員:150名(当日先着/申込不要)

無料

ワークショップ「山×身体 やまはこれ“からだ”」

世田谷区内の大学と連携し、自然や山をテーマに身体で表現します。

8.29[火] 10:30~15:30 1階文学サロン

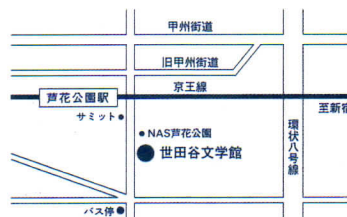
講師:日本女子体育大学 ダンス・プロデュース研究部

対象:小学生 定員:30名 締切:8月8日(必着)

申込:往復ハガキを当館イベント担当へ。(①氏名・ふりがな ②学年 ③〒・住所 ④電話番号を明記)
連名申込可、応募者多数の場合抽選。

無料

「セタブン・マーケット2017」9.16[土]・17[日]など、このほかにも会期中のイベントを予定しています。詳細はお問い合わせください。



世田谷文学館
SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062

東京都世田谷区南烏山1-10-10

Tel.03-5374-9111

Fax.03-5374-9120

http://www.setabun.or.jp/

【交通案内】 京王線芦花公園駅南口から徒歩5分
小田急線千歳橋駅から京王バス(千歳山駅行)「芦花恒春園」下車徒歩5分

同時開催 | コレクション展 ut pictura poesis — 詩は絵のように
コレクションにみる文学を彩る書画の魅力 開催中~2017.9.18[月・祝]

次回企画展 | 滋藤龍彦 ドラコニアの地平 2017.10.7[土]—12.17[日]